

(1) 15:00 15:40



(2) 15:40 16:00



(3) 16:00 16:30

2004
2004



10

16



16



16



(1) 2004

(2) Nb. 29

(3) Vol. 29 Nb. 4

(4) 2004 NO 117

(5) 15

(6)

(7)

郵便貯金の I T 戦略

関西大学ソシオネットワーク戦略研究センター長

総合情報学部教授 鵜飼 康 東

日本の全国銀行 136 行は、約 1 万 5,000 の店舗、約 7 万 9,000 の A T M、約 3 億 2,000 万枚のキャッシュカードを大きな支障なく稼働させてきた。そのシステム運用は、約 2 万 4,700 の郵便局が約 2 万 5,000 の A T M と約 8,800 万枚のキャッシュカードを稼働させてきた郵便貯金事業よりもリスク管理面で優れている。郵便貯金事業は、236 兆円という貯金残高に比して、情報システムの知的蓄積が乏しい。具体的に言えば、鵜飼（2003 - A）で証明されたように、ハードウェアよりもソフトウェアの拡大が必要であり、次に、ソフトウェアよりも人的投資の拡充と経営組織の改変が必要となる。鵜飼（2003 - B）は、郵便局長アンケートにより、I T と企業組織の間に統計的に有意な関係があることを明らかにした。すなわち、従来型の局・部・課を組織運営の中心に据えた集権型経営組織よりも、プロジェクト方式にもとづく自由で大幅な権限委譲を受けたチームを主体とする分権型経営組織のほうが I T 生産性に優れている。

【プロフィール】

経済政策論担当。1946年中国遼陽市生まれ。早稲田大学政治経済学部を経て72年一橋大学経済学修士を取得。75年本学経済学部専任講師、80年助教授。94年より総合情報学部教授。

81年7月から1年半フルブライト研究員としてハーバード大学に、また89年9月から1年間シニア・アソシエートとしてオックスフォード大学に留学、計量経済学を学ばれた。

学風は新古典派に属され、財政金融政策の効果を否定される。近年政策分析に御活躍で、『日本経済新聞』、『週刊エコノミスト』、『週刊東洋経済』等でお名前を拝見する。74年に角川短歌賞を受け、80年に歌集『断片』（角川書店）を出版しておられる歌壇の重鎮。

総合情報学部開設準備委員会副委員長、関西大学協議員、日本公共政策学会理事を歴任。2002年度より文部科学省学術フロンティア推進拠点「関西大学ソシオネットワーク戦略研究センター」のセンター長として阪大、九州大、早大、神戸大の教授達を指揮されている。

医工薬連携研究センターにおける先端的研究

先端科学技術推進機構長・
医工薬連携研究センター長・
工学部教授 大場 謙吉

関西大学医工薬連携研究センターは、医学、工学、薬学に精通した他大学、企業、研究機関の研究者との共同研究によって人工臓器を含む先進的な診断・治療技術、機器および医薬を開発することを目的として本年2月に先端科学技術推進機構内に創設された研究拠点である。本学では、以前よりナノテクノロジー、バイオ、情報、医療、医薬分野を横断する共同研究を学内外で進めており、それらを本研究センターに結集して、研究開発のさらなる進展を図っている。進行中の研究の中から、今回は次の3件の先端的研究を紹介したい。

(a) 脳磁気測定による脳梗塞痺患者の運動機能回復度診断 [小谷健太郎・助教授 (工学部・システムマネジメント工学科) と大阪医科大学および産業技術総合研究所との共同研究]

脳梗塞からの回復期における梗塞部位神経の活発な電氣的活動を脳磁界応答計測によって捉えることに成功しており、運動機能回復度の新しい診断法を提供出来そうである。

(b) 模擬／人工血球としてのミクロンサイズの高分子ゲル微粒子の創製 [大場謙吉・教授 (機械システム工学科)]

直径数ミクロンで粒径がきわめて良く揃った柔軟弾性高分子ゲル微粒子の作製に成功した。模擬／人工赤血球や血小板、超音波造影剤等の幅広い用途が見込まれる。

(c) 凸レンズ面状先端を持つ光ファイバーレーザー血流速度センサー [大場謙吉・教授 (機械システム工学科)]

直径約 100 ミクロンの単一光ファイバーによってヒト全血中の局所流速を正確に測定できるセンサーを開発した。血管等の新しいカテーテル診断技術として、また工業的には種々の不透明流体用として実用化できそうである。

【プロフィール】

1942年広島県因島市生まれ。1964年3月大阪大学工学部造船学科卒業。1969年3月同大学院博士課程(超高温理工学研究施設)単位習得退学。同年4月同大学工学部助手。1973年9月「電子ビーム蛍光法を基準測定法として用いた高速イオンゲージの研究」にて工学博士の学位を取得(大阪大学)。1980年4月関西大学工学部助教授を経て、1988年4月同大学教授となり現在に至る。この間、1989年4月から1990年3月まで関西大学在外研究員として、英国 Imperial College および Harwell Laboratory に滞在。2001年4月関西大学工業技術研究所・所長、2002年4月より関西大学先端科学技術推進機構・機構長(工業技術研究所からの改組・改名に伴う)を務める。2003年再任(任期:2003年4月より2005年3月まで)。